

令和 6 年度 宝木中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

- (1) 基本目標 「人間尊重の教育を基盤に，知・徳・体の調和のとれた発達を目指し，心身共に健康で知性と創造性に富み，心情豊かでたくましく未来を拓く人間の育成」
- (2) 具体目標（具体的な生徒像）
- ① 気力・体力のあるたくましい生徒（たくましく）
 - ② 自ら学びよく考える生徒（さとく）
 - ③ 心豊かで礼儀正しい生徒（あかるく）
 - ④ 協力し社会に役立つ生徒（いきいきと）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校は ○子どもたちにとって安心して楽しく充実した学びができる場所であること⇒（行きたい学校）
 ○教職員にとって働き甲斐を感じながら意欲的に取り組むことができる場所であること⇒（勤めたい学校）
 ○保護者，地域の皆様から信頼される場所であること⇒（通わせたい学校）
 このような学校を目指し，信頼と心の触れ合いを基盤とした豊かな人間関係に支えられた「ぬくもりと夢のある学校」づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 学習指導要領や第 2 次宇都宮市学校教育推進計画などの趣旨を踏まえると共に，生徒の実態や学校・地域の特色を生かした特色ある教育課程の編成・実施に努める。
- (2) 生徒の実態に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を図り，生徒一人一人の確かな学力の育成に努める。
- (3) 生徒理解を基盤として生徒指導の充実を図ると共に，生徒の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や長期的な視点に立った特別支援教育を推進し，望ましい人間関係や豊かな人間性・社会性の育成に努める。
- (4) 道徳科の充実を図り，生徒一人一人の道徳的実践力を高めると共に，読書活動や体験活動を一層推進し，生徒の内面に根ざした道徳性の育成に努める。
- (5) 家庭との連携を強化し，健康管理や体力づくり，食に関する指導の充実を図るなど，生徒が将来にわたって健康に生活していく基盤づくりに努める。
- (6) 生徒の発達の段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育，進路指導を推進し，社会的・職業的な自立に向け必要となる能力・態度の育成に努める。
- (7) デジタル機器を活用し，業務の効率化や簡略化などを図り，生徒に向き合う時間の確保と教職員の勤務時間の適正化に努める。
- (8) 児童生徒の 9 年間の成長を見通した小中一貫教育を推進し，学校園で共通理解を図りながら宝木地域学校園が目指す心豊かな生徒の育成に努める。
- (9) よき伝統や地域の特色，教職員の創意工夫を生かした SDGs の取組など特色ある学校づくりの推進に努める。
- (10) 積極的な情報提供など家庭・地域社会との連携を一層深めると共に，魅力ある学校づくり地域協議会を効果的に活用し，生徒の地域行事への協力やボランティア活動を通して，地域と共にある学校づくりの推進に努める。

【宝木地域学校園教育ビジョン】

テーマ「いきいき宝木」心豊かな宝木っ子の育成を目指します。

他を思いやる心や規範意識を育み，基本的生活習慣や主体的に学ぶ態度を身に付けさせる指導の充実

4 教育課程編成の方針

- (1) 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力などを育むと共に，主体的に学習に取り組む態度を養い，多様な人々との協働を促す教育の充実に努める。
- (2) 小中学校の連携を図り，生徒会や各教科の出前授業などの交流を継続する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
- ・ 全教職員が学校の課題を共通認識し，課題解決のためにチームとして取り組む協力体制の確立
 - 生徒の学力向上を目指し，教員の授業力向上並びに学業指導，キャリア教育の推進
- (2) 学習指導
- 授業のねらいに基づいた振り返りと自主学習ノートなどの活用による家庭学習の習慣化
 - ・ 学校課題に即した研究授業や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- (3) 児童生徒指導
- 自己肯定感や自己有用感を育てると共に，よりよい人間関係づくりと不登校対策の推進
 - ・ 問題行動の未然防止と早期発見
- (4) 健康（保健安全・食育）・体力
- ・ 危険の予測や危機回避能力の育成を図る防災教育の推進
 - ・ 感染症予防や食育を通じた健康で安全な生活習慣の確立

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 生徒は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の充実を図る。 ・積極的にグループ活動などを取り入れると共に, 生徒が意欲的に授業に取り組めるよう, 宇都宮モデル「はつきり・じっくり・すっきり」を実行し, 授業改善を図る。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より0.2%高く88.6%であり, 数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・思考を整理したり, 対話による学び合いを行ったりする場を多く取り入れるなど, 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 生徒は, 思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・道徳の授業では, 資料提示と発問の工夫を行い, 判断力などが高められるようにしていく。 ・日々の授業や学校行事などで, 友達と互いのよさを感じられるような活動を取り入れ, 思いやりや協働する心を育てる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より0.2%高く91.5%であり, 数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・道徳の授業や学校行事など, あらゆる場面で, 友達と互いの良さを認め合えるような活動を実践する。
	A3 生徒は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	・学校行事や部活動を通して最後まで粘り強くやり通す力がつくように適切な目標を設定させ, 有意義な体験ができるように支援する。 ・家庭学習の適切な目標を設定するために自主学習シートを適時使用し, 毎日自主学習を提出させることで計画的に学習する習慣を育成する。 ・学年, 学級目標, 学年行事のローガンなどを達成するための個人目標を明確にもち, 協力して努力する態度を育成する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答が昨年度より3.5%低く77.8%であり, 数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・部活動や家庭学習などを通して, 失敗を恐れずに目標に向かって粘り強く取り組んだり, 自分の課題を克服するために努力を続けたりできるよう指導していく。
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 生徒は, 健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・食育や体育的活動の充実を図り, 自分に合ったバランスの良い食生活を意識すると共に, 体力増進に努めるなどして健康的な生活ができるようにする。 ・事前に必要な知識を教え, 生徒が自分の判断で避難行動ができるよう, 計画的な避難訓練を実施する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より0.4%低く88.0%であったが, 数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・生徒が自己の健康に関心をもち, 健康的な生活習慣を身に付けることができるよう, 計画的な指導を図る。 ・生徒が自他の安全に留意した生活を送ることができるよう, 教育活動全般を通して指導を徹底する。

1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	・キャリアパスポートを活用し、学習したことを積み重ねていく過程で振り返りや反省を繰り返すことにより、学習した内容の深化を図り、進路に関する目標を考えさせる。 ・地域学校園で「キャリア教育の指針」を作成し、小学校と連携してキャリア教育を行う。 ・地区体育祭や宝木まつりなどの地域活動やボランティア活動に参加するよう、教室へのチラシ掲示や生徒会からの働きかけを行い、社会貢献を積極的に行う態度を育成する。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は0.3%高く83.1%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・キャリア教育の充実を図り、進路に関する目標を明確にしていく。 ・ボランティアや社会体験活動に参加できる機会を与え、社会貢献を積極的に行う態度を育成する。
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	・英語の授業でSmall Talkを継続し、英語でやり取りする活動の場を作る。 ・スピーキングテストを行うことで、生徒が与えられた場面設定において、ALTと積極的に英語でコミュニケーションをとる場面を設定する。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より3.8%低く61.8%であり、数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・英語の授業では、継続して担当教師やALT、生徒同士による英語で対話する場面を多く取り入れ、英語を使ってコミュニケーションをしたことへの賞賛を意識的に行い、生徒の自己肯定感を高められるようにする。 ・授業以外の場でも英語に触れることができるよう、昼の校内放送などを利用し、英語に触れる機会を増やす。
	A7 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	・総合的な学習の時間の年間指導計画に、宇都宮学を位置づけ実践するなど研究を深める。 ・宇都宮学で学んだ歴史や文化、風景など自らが住んでいる地域に改めて目を向ける機会とした断郊協歩大会を通し、見聞きしたことを俳句や振り返りなどで表現する力を高める。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より3.2%低く80.5%であったが、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・「宇都宮学」による宇都宮の歴史や文化の学び、断郊協歩大会を通じた地域への理解、スポーツや食、芸術、住みやすいまちづくりなどの宇都宮の魅力など、郷土のよさについての指導を行う。
2ー(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A8 生徒は、デジタル機器や図書などを学習に活用している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	・各教科及び総合的な学習の時間における調べ学習などで、一人一台端末や図書、資料などを活用する力を育成する。 ・「AIドリル」を活用した家庭学習やLタイムでのAIドリル学習を継続して行う。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より0.9%高く69.1%であったが、数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・各教科の授業で、一人一台端末の効果的な利用方法の研究を継続する。 ・一人一台端末や図書、資料を活用し、自分の考えをまとめる力を育成する。 ・自主学習ノートだけでなく、「AIドリル」を活用した家庭学習も行えるよう、各教科での活用を促す。

2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	・生徒会活動や各教科の学習の中で、SDGsについて意識したり、理解を深めたりする場を設定し、「持続可能な社会」への関心を高める。 ・新聞記事やニュースなどの情報から、環境問題や災害など、身の回りに起こっている出来事に関心をもたせる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より10.6%低く67.1%であり、数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・特別活動や総合的な学習の時間を通して、SDGsの取組を推進すると共に、教科横断的な指導を通して「持続可能な社会」への関心を高める学習内容を工夫する。
3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	・毎週のエデュケーション委員会(年3回)を通して、一人一人の教育的ニーズを把握する。 ・特別支援小委員会やケース会議を適宜開き、チームで方向性を協議しながら支援を行う。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・教職員間の連携を図りながら、一人一人の教育的ニーズを把握し、個々の状況に応じた適切な支援を行う。
3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	・道徳・学活の年間指導計画に、いじめ根絶に向けた授業を年4回位置付け、実施する。 ・5月、9月、12月、2月に「いじめの調査」を実施し、未然防止、早期発見・早期対応に努める。 ・「学校いじめ防止基本方針」に基いた研修を行い、教職員の意識を高める。 ・生徒会を中心にいじめゼロ集会を実施し、いじめが許されないことへの生徒の意識を高める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より1.6%高く94.2%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・道徳・学活の授業で、いじめ根絶に向けた授業を実施する。 ・「学校いじめ防止基本方針」に基づいた研修を行い、教職員の意識を高める。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	・挨拶、認めて褒めて励ます賞賛などの言葉かけや、生徒が活躍できる場面を設定し、学級が生徒の居場所となるような温かい雰囲気を作る。 ・宮っ子ダイアリーを活用し、生徒理解を深めると共に、日常的な生徒の観察を充実させる。 ・意図的・計画的に教育相談を実施し、配慮生徒への支援を行う。(ケース会議・チーム対応)	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より1.9%高く94.4%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・日常的な生徒の観察を強化し、教職員で連携を図りながら、配慮生徒への支援を行う。
3-(3) 外国人児童生徒などへの適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・各種学校行事などにおいて、生徒会や学級委員長を中心に、生徒の主体的活動を積極的に取り入れ、リーダーの育成を図ると共に、生徒同士が主体的に活動する態度を育てる。 ・Q.U.などを活用し、自己肯定感の醸成を図ると共に、学級での潤滑な人間関係づくりができるよう個々に応じた指導や相談を行う。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より4.8%高く95.9%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・生徒が主体的に活動し、自己肯定感を高める場を多く設定し、学校行事などを通してリーダーの育成を図る。 ・教育相談やQ.U.などを活用し、個々に応じた適切な支援や相談を行う。
3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化				

4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・生徒の学習意欲を喚起するとともに、「ねらい」「学び合い」「まとめ」「振り返り」を学習活動に適切に位置付けることで、宇都宮モデル「はつきり・じっくり・すっきり」を実行し、学力向上に繋げる。 ・理解の状況に応じた繰り返し指導や習熟の程度に応じた指導など、個に応じた指導を充実させる。 ・一人一授業公開をし、意見交換を行うことで教員の授業力向上を図る。 ・OJT機能を使い、若手教員の授業力向上を図る。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より0.1%低く90.1%であったが、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・生徒が授業のポイントを捉えて授業に臨めるよう、本時のねらいを分かりやすく提示したり、授業の振り返りを行うことで、家庭学習で復習すべきことをはっきりさせたりするなど、きめ細かな指導を行う。 ・一人一授業公開をし、職員研修にて授業研究会を行うことで教員の授業力向上を図る。 ・OJT機能を使い、若手教員の授業力向上を図る。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	・各種部会及び会議などのみならず、日々の報・連・相を含めたコミュニケーションを通して、教職員の共通理解を図り、今後の指導の手立てや方針を確立し、組織的な対応に努める。 ・各セクションのリーダーを中心に、関係職員や関係機関との連携を密にする。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は昨年度より2.9%高く100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・各種部会及び会議などのみならず、日々の報・連・相を含めたコミュニケーションを通して、教職員の共通理解を図る。また、様々な課題に対して、教職員が連携し、組織的に対応できるようにしていく。
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	・ICTの活用を充実させ、業務の精選・効率化を図る。 ・会議などの効率化のため、内容を精選し、連絡事項については、日報などで簡潔に伝達できるようにする。 ・文書やデータ、各教科の物品などの保管場所を設定すると共に、整理をし、機能的な環境をつくる。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は昨年度より13.2%高く90.3%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・業務の優先順位を明確にするなど、見直しをもって職務を遂行する。 ・ICTを有効に活用し、業務の精選・効率化を図る。 ・文書やデータ、各教科の物品などの整理を行うなど、機能的な職場環境整備に努める。
5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	・生活面と学習面で、小学校と中学校のつながりがあることを意識させる。 ・小中の情報交換を充実させ、よりよい生徒の育成に努める。 ・地域学校園各部会の取組について、生徒へ紹介する機会を設け、学校ホームページで情報を発信することで保護者への啓発を図る。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より3.3%高く83.7%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・小・中間の交流の機会を通して、地域学校園のつながりが意識できるよう指導する。 ・生活・学習面に関する地域の子どもの課題を明確にし、その改善や向上に向けた具体的な対策を実践する。

5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業などと連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上 地域住民の肯定的回答 85%以上	・「茶道教室」、「働く人に学ぼう」、「宮っ子チャレンジウィーク」など、総合的な学習の時間において地域の人材を活用する。 ・学力向上のための「放課後自習支援」や「防災教室」などにおいて地域の人材に協力を求め、学校教育を推進する。 ・「高校説明会」など、関係機関と連携した活動を行う。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は96.8%, 地域住民の肯定的回答は100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・地域の人材を積極的に活かし、より充実した教育活動を推進する。 ・休日の部活動地域移行の実現に向け、地域と連携を図りながら事業を進める。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	・毎月の安全点検を確実に実施し、市会計年度任用職員（学校業務）や機動班との連携を図り、修繕箇所の早期改善に努力する。 ・危機管理マニュアルを元に、安全教育年間計画を見直し、計画的に実行する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・毎月の安全点検を確実に実施し、修繕箇所の早期改善に努力する。 ・適切な感染症対策を実行する。 ・危機管理マニュアルを元に安全教育の年間計画を見直し、計画的に実行する。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	・授業や家庭学習においてデジタル教科書やAIドリルを積極的に利用できるよう、一人一台端末の効果的な活用法について研究を進める。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・授業や家庭学習においてデジタル教科書やAIドリルを積極的に利用できるよう、一人一台端末の効果的な活用法について研究を進める。また、生徒への適切な使用の啓発を継続する。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題など	B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	・年間を通して生徒会を中心にあいさつ運動を行い、あいさつの大切さを気付かせる。 ・「茶道教室」を通して、礼儀作法の大切さに気付かせ、真心を込めてあいさつができるよう指導する。 ・道徳の授業で言葉づかいやあいさつに表れる人間関係や自身の心のありようをじっくり見つめ直すことの大切さを指導する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より0.2%低く96.2%であったが、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・「茶道教室」や道徳の授業など、あらゆる場面であいさつの大切さを気付かせると共に、生徒会主体で行っているあいさつ運動の充実を図る。
	B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・学年学級委員会などと協力し、授業開始のチャイムが鳴る前に自ら着席するなど、時間に余裕を持って行動できるよう指導する。 ・ネットトラブル防止に関する指導を全体及び学年ごとに実施する。また、保護者会の機会を捉えて情報提供し、理解・協力を要請すると共に、小学校との連携も強化する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より1.1%低く93.6%であったが、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・生徒が集団生活や社会におけるきまりやルールについて考える場を設定し、主体的に判断し行動する力が身に付くよう指導する。

	B 3 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上 地域住民の肯定的回答 85%	・断郊協歩大会を行い郷土の自然や風景に接し、これらを末永く大切にしようとする心を育てる。 ・かまどベンチを利用した防災教育を実施し、地域防災に対する意識を高める。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は昨年度より10.6%高く93.5%、地域住民の肯定的回答は100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・地域人材を活かした特色ある教育活動を積極的に展開し、よりよい生徒の育成に努めると共に、本校の素晴らしさを広く発信する。
	B 4 生徒は、家庭学習に意欲的に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 70%以上	・「家庭学習の手引き」を年度初めのオリエンテーションや学級活動の時間で生徒へ配付し、学年の学習係や学級担任から説明する。保護者にも「家庭学習の手引き」を配付し、家庭と学校で連携を図る。 ・自主学習ノートを定期的に点検し、自分の立てた目標を達成するために粘り強く家庭学習に取り組めるよう啓発、指導をする。	B 【達成状況】 ・肯定的回答は生徒が昨年度より0.9%低く82.5%、保護者が昨年度より2.4%高く64.3%であったが、共に数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・「家庭学習の手引き」を生徒及び保護者にも「家庭学習の手引き」を配付し、家庭と学校で連携を図りながら指導を継続する。 ・自分の立てた目標を達成するために、自主学習ノートを活用したり、授業と家庭学習をつなぐ宿題や課題に取り組ませたりするなど、粘り強く家庭学習に取り組めるよう指導する。

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・宇都宮市の共通項目となる22項目（A1～A22）において、調査した全対象者（教職員・保護者・地域住民・生徒）から回答を得た全63項目のうち、肯定的回答の割合が80%を上回った項目は49項目（全体の77.8%）であった。昨年度より3.1ポイント下回る結果であったが、本校の教育活動について概ね肯定的に受け止められていると捉えられる。

【学校運営に関する項目について】

・A13, A15, A16, A17, A18, B3については数値指標を上回った。

・A13については、生徒は95.9%で数値指標を10.9ポイント、昨年度より4.8ポイント、市中学校平均より0.7ポイント上回った。また、教職員及び地域住民は100%、保護者は91.8%と肯定的回答率が高く、学校行事や生徒会活動を充実させ、生徒が主体的に活動する場を多く設定した結果、学校全体が明るく活気ある雰囲気になり、生徒が達成感や充実感を味わう姿が見られた。今後も継続して、生徒が自己存在感や自己肯定感をもてるよう、生徒一人一人の声に耳を傾け、寄り添いながら丁寧に支援したり指導していきたい。

・A16については、教職員は90.3%で数値指標を10.3ポイント、昨年度より13.2ポイント、市中学校平均より11.2ポイント上回った。教職員がチームとして力を合わせて業務を遂行することができる風通しのよい職場環境の中、働き方改革に向けた具体的な取組を実践することで、教職員一人一人が負担軽減を実感することができ、自己の能力をより発揮できるようになってきた。今後も、効率よく仕事を進めるためのアイデアを出し合いながら、学校における働き方改革を推進していきたい。

・A9については、生徒は67.1%で数値指標を12.9ポイント、昨年度より10.6ポイント、市中学校平均より9.6ポイント下回った。また、教職員は67.7%となっており、経年比較しても肯定的回答率は下がっている。災害や環境問題など身の回りに起きる出来事や地球に起きている問題に対して自分ができることについて考えるなど、「持続可能な社会」についてしっかりと理解させていきたい。

【生徒支援に関する項目について】

○よりよい人間関係づくりに向け、個々の状況に応じたきめ細やかな指導を心掛けて指導することができた。

・A2, A5, A10, A11, A12, B1, B2については数値指標を上回った。

・A11については、生徒は94.2%で数値指標を4.2ポイント、昨年度より1.6ポイント、市中学校平均より1.3ポイント上

回った。保護者は 81.3%で昨年度より 3.9 ポイント、市中学校平均より 3.3 ポイント上回っており、いじめ根絶に向けた道徳や学級活動の授業や生徒会を中心としたいじめゼロ集会を実施したり、「いじめの調査」による未然防止、早期発見・早期対応に努めたりしてきた成果が見られる。今後もいじめが許されないことへの生徒の意識を高める指導を継続していきたい。

・ A12 については、教職員は 100%、生徒は 94.5%で数値指標を 9.5 ポイント、保護者は 91.1%で昨年度より 6.0 ポイント上回った。学校全体及び学年体制で、個々の状況に応じた柔軟な支援や対応を継続して取り組んできた結果であると思われる。

・ A3 については、生徒は 77.8%で数値指標を 2.2 ポイント、昨年度より 3.5 ポイント、市中学校平均より 6.5 ポイント下回った。また、教職員及び保護者の経年比較で見ても肯定的回答率が下がっており、特に教職員は 19.7 ポイント、保護者は 9.2 ポイント下回っていることから、失敗を恐れずに目標に向かって粘り強く挑戦したり、自分の課題を見つけ、考え、行動し努力を続けたりするなど、指導の充実に努めていきたい。また、「努力は必ず報われること」「夢や目標をもつこと」「夢や目標に近づくためには粘り強い努力やあきらめない姿勢が大切である」ことを伝えることで、生徒自身が目標をもつことの大切さに気付くよう助言していきたい。

・ B1 については、生徒は 96.2%で数値指標を 6.2 ポイント上回ったが、昨年度より、教職員は 7.2 ポイント、保護者 H4.8 ポイント下回り、今年度、「あいさつ一番宝木中」を目指し取り組んできたが、生徒及び教職員、保護者とも年々、あいさつができないようになってきていると感じており、課題が残った。あいさつは言葉のキャッチボールで人と人とのコミュニケーションや人間関係づくりで大切なことである。笑顔で相手の目を見てあいさつができるよう、今後も指導を継続していきたい。

・ B2 については、生徒は 93.6%で数値指標を 7.9 ポイント上回ったが、昨年度より教職員が 14.4 ポイント、保護者は 7.5 ポイント、市中学校平均より教職員が 13.7 ポイント、保護者は 6.8 ポイント下回っており、これまで、きまりやマナーを守る大切さやネットトラブル防止に関する指導を積み重ねてきたが、経年比較で見ても肯定的回答率が生徒及び教職員、保護者とも下がっている状況である。生徒が集団生活や社会におけるきまりやルールについて考える場を設定し、主体的に判断し行動できる力が身に付けさせるなど、規範意識を育む指導を充実させたい。

【学習指導に関する項目について】

○学習意欲の喚起、実態に応じた指導方法の工夫、主体的・対話的な学びなど、自ら学び考える生徒の育成に努めた。

・ A1, A7, A14, A20 については数値指標を上回った。

・ A20 については、教職員は 100%で数値指標を 20.0 ポイント、市中学校平均より 7.5 ポイント上回った。デジタル教科書や一人一台端末などの I C T 機器の活用が日常化し、教職員の活用能力が向上してきたと考える。

・ A1 については、生徒は 88.6%で数値指標を 3.1 ポイント、昨年度より 0.2 ポイント上回ったが、市中学校平均より 1.0 ポイント、教職員は 80.6%で昨年度より 2.3 ポイント、市中学校平均より 9.7 ポイント下回った。調べたことや分かったことなど思考を整理するために自分でまとめたり、対話によって自分の考えを広げたり深めたりする学び合う場を設定すると共に、積極的にグループ活動を取り入れ、生徒が意欲的に授業に取り組み、主体的・対話的で深い学びになるよう指導を充実させたい。

・ A6 については、生徒は 61.8%で数値指標を 18.2 ポイント、昨年度より 3.8 ポイント、市中学校平均より 12.4 ポイント下回った。これまで英語の授業で A L T と生徒、生徒同士が英語で対話する活動を多く取り入れてきたが、英語によるコミュニケーションの楽しさを生徒が味わうまでには至らなかったのではないかとと思われる。楽しさを実感するには英語に対する苦手意識の緩和が必要となるため、学習内容の定着を図る指導を充実させるとともに、昼の校内放送で英語の楽曲を流すことで関心をもたせるなど、授業以外で英語を身近に感じる環境を作っていきたい。

・ B4 については、生徒は 82.5%で数値指標を 2.5 ポイント、昨年度より 0.9 ポイント下回った。また、保護者は 64.3%、教職員は 58.1%で昨年度より 13.3 ポイント下回っており、これまで学習した内容の定着、学習の習慣化を目指して、自主学習ノートの提出を継続して取り組んできたが課題が多い。毎日、家庭学習の目標を自分で立て、計画的に学習を進められるよう支援することで、「自分から勉強する」姿勢を身に付けさせたい。また、自主学習ノートを活用して学習を積み重ねたり、授業と家庭をつなぐ宿題や課題に取り組ませたりしながら、自ら学習に向かう姿勢が全校生徒に身に付くよう、根気強く指導をしていきたい。

【健康体力に関する項目について】

○A4 については、市中学校平均を教職員は 9.6 ポイント上回ったが、保護者は 5.9 ポイント、生徒は 2.9 ポイント下回った。また、昨年度より保護者は 5.7 ポイント、生徒は 0.4 ポイント下回った。健康や食の大切さ、適度な運動の継続などにより健康的な生活が送ったり、安全に対する意識を高め、自己の生命や安全を自分の力で守ることができる態度を育成したりできるよう指導していきたい。

・ A19 については、毎月の安全点検を確実に行うとともに、学校業務市会計年度任用職員や月 2 回、市から派遣される機動班職員による、修繕箇所についての早期改善が図られていることが肯定的回答につながった。

7 学校関係者評価

- ・アンケートの結果から、生徒は安心して学校生活を送っていることが分かる。
- ・素直な生徒が多いと思う。防災教室では友達を気遣う姿勢も見られた。
- ・授業参観や登下校、来校した時、生徒がとても生き生きとしており、学校は活気に満ち溢れていると感じた。
- ・合同あいさつ運動や美化活動、防災教室など、生徒と楽しく活動させていただいた。
- ・地域行事にボランティア参加をした生徒たちは、大人ときちんと話ができたり、楽しく手伝ったりしていた。
- ・地域未来会議で生徒会から提案のあったフードバンクへの協力は、学校と地域がともに社会貢献することにつながる取組になっている。
- ・地域未来会議では、生徒会の生徒がしっかりと考えを発言しており、伝える力が育っていると感じた。
- ・来校時にすれ違う生徒が挨拶してくれるが、元気な挨拶が少なかったと思う。校外でも自分から挨拶ができるようになるとよい。合同あいさつ運動及び美化活動を増やすなど、地域が学校に協力する機会をもつことで「挨拶ができる子ども」を育てていけないかと思う。
- ・地域のボランティアを活用することで、色々な世代の大人と関わることができ、将来の目標へのきっかけづくりになるかもしれないと考える。
- ・生徒の意欲的な行動を呼び起こすには、一人一人が未来像をしっかりと描くことが大切であり、それを考える機会が多くあるとよい。
- ・勉強も運動も夢をもっているのともっていないのでは大きな差が出ると思う。学校と家庭が協力して、生徒一人一人に夢が生まれ、目標の向かっていくための支援ができたらよい。
- ・いじめ根絶については引き続き取り組んでほしい。
- ・英語での対話は授業だけでは難しいと思う。平和な世界を築くことに貢献する探求心、知識、思いやりの育成を目的とした国際バカロレア教育を参考にに取り組んでほしい。
- ・自己肯定感を高めるための手助けが難しい。単に成功した時に褒めたりするだけでは効果が薄いと実感している。
- ・生徒の意欲を喚起するためにも十分に対話をしたり、自分のことを分かってくれていると安心させたりすることで、自己肯定感が高まり、健全な学校生活を送ることにつながるのではないかと思う。
- ・きまりやマナーを守って学校生活を送ることについて、教職員も保護者も経年比較して肯定割合が下がっていることから、社会性や規範意識を育む指導を学校と家庭が協力して行う必要がある。
- ・自主学习については、何の為に勉強するのか、どんな職業に就きたいのかなど明確さが必要と考える。
- ・小学校の結果も中学校と同様の傾向があるため、地域学校園で小中連携しながら取り組んでいく必要があると感じた。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・全体アンケートの結果から、概ね本校の教育活動に肯定的に受け止められていると捉えられる。次年度に向け、肯定的回答率が高かった取組については更なる充実を目指し、課題が残る取組については具体策の見直しや工夫を行っていきたい。
- 【次年度の向けた主な取組】
- 生徒の実態に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を図り、生徒一人一人の確かな学力を育成する。
- ・調べたことや分かったことなど思考を整理するために自分でまとめたり、対話によって自分の考えを広げたり深めたりする学び合う場を設定するなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導を充実させる。
- 生徒理解を基盤として生徒指導・生徒支援の充実を図ると共に、生徒の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や長期的な視点に立った特別支援教育を推進する。
- ・失敗を恐れずに目標に向かって粘り強く挑戦したり、自分の課題を見つけ、考え、行動し努力を続けたりするなど、指導を充実させる。
- ・生徒が集団生活や社会におけるきまりやルールについて考える場を設定し、主体的に判断し行動できる力を身に付けさせるなど、規範意識を育む指導を充実させる。
- ・自分の立てた目標の達成のために、自主学习ノートを活用したり、授業と家庭学習をつなげる宿題や課題に取り組ませたりするなど、計画的な家庭学習ができるよう支援し、「自分から勉強する」姿勢を身に付けさせる。
- ・生徒に向き合う時間を確保するため、教職員の勤務時間の適正化、業務の効率化や改善を図るなど働き方改革を推進する。